

第1回「明日の京都の高速鉄道検討委員会」の開催概要

■ 関西国際空港とのアクセスのあり方について

- ・ 関西国際空港の利便性が低い現状では、「伊丹空港をどうするのか、関空をどうするのか」が、これからも大きな問題。
- ・ 京都からのアクセスでは、伊丹空港の活用がもっとあっていいかと思う。空港問題は、大阪府、兵庫県、京都府で議論し、京都府が調整役として立つことが、現実的な解決策。
- ・ 関空は、関空の魅力そのものが問題。「利用されないから不便になる」、「不便になるから利用されない」という負の連鎖を切らなければならない。
- ・ 関空アクセスに関して、1年後にダイヤ改正で5分、10分でも短縮し、将来的には1時間以内とする、そういう2つの提言があってもいい。
- ・ 特急「はるか」は、他の列車より優先順位が低く、定時性の確保が軽んじられている印象。
- ・ 関空については、京都からのアクセス改善の実現可能性について整理が必要。

■ リニア中央新幹線と京都とのあり方について

- ・ リニアが奈良市附近を経由したとしても、京都にとってはメリットがあるはずであり、上手く使う方法の検討が必要。
- ・ ルート選定は利用者を基準に、国全体としてどのルートが最適か、将来に向かって、利用者の視点で一番いいルートを考えることが必要。
- ・ リニアについては、京都への分岐線を作るのも一つの方策。
- ・ リニアについては、「不可能なことを話し合うより、次のことを話し合う」ということが有意義。
- ・ リニアについては、数十年後に「あの時、京都は何をしていた」と言われないようにしたい。
- ・ リニアの問題を将来に向けどう考えていくのか、次善の方策をも含めた整理が必要。

■ その他

- ・ 日本の鉄道の政策、財源は不十分で整備が進んでいない。国家プロジェクトとして財源を使い、国全体で活かす仕組みが必要。
- ・ 今まででは技術の蓄積があるが、今後は技術を支えていく仕組みを整えないと、国として危うい。

第2回「明日の京都の高速鉄道検討委員会」の開催概要

■ 関西国際空港とのアクセスのあり方について

- ・ 特急「はるか」の定時性を確保することが重要課題。
- ・ 既存の状態での「はるか」のスピードアップは困難。現在利用している路線を抜本的に改良するか、「なにわ筋線」等の新線を利用するかしなければならない。
- ・ 「なにわ筋線」を利用したアクセス改善はいい話である。大阪だけではなく、その恩恵を受ける兵庫などとも連携して進むのもよい。
- ・ 「なにわ筋線」については、計画の本来目的を考えるべき。京都のために建設してくれるわけではないはず。
- ・ 鉄道整備について、国からの補助制度は十分ではない。
- ・ 「どの列車が速いか」もさることながら、「空港利用者専用の交通手段でアクセスできるか」も重要な要素ではないか。

■ リニア中央新幹線と京都とのあり方について

- ・ リニア中央新幹線は、京都からの利便性もさることながら、京都へ向かう利用者の視点も必要。
- ・ 既存の東海道新幹線と相互補完するためにも、あえて違う箇所を経由させる意義がある。
- ・ 40年前の計画が、本当に変えられないのか。現在の視点も必要。
- ・ ルートは、奈良市のどこを通るかまでは決まっていないから、京都府にとって都合のいい「奈良市附近」という検討をすべき。「奈良市附近」とは、決して「奈良県内」「奈良市内」ではない。
- ・ ルート選定は利用者を基準に、国全体としてどのルートが最適か、将来に向かって、利用者の視点で一番いいルートを考えることが必要。